

白浜地区学校再編に関わる地区説明会（地区住民対象） 会議録

日時 令和8年1月16日（金）

午後7時00分から午後8時47分まで

会場 白浜コミュニティセンター 大会議室

【当日関係者】

参加者	26人
検討委員	15人（2人欠席）
オブザーバー	3人（2人欠席）
事務局	11人（2人欠席）

1 開会

進行 皆さんこんばんは。定刻となりましたので、始めさせていただきます。

本日は、大変お忙しい中、また夜間お疲れのところ御出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の進行を務めます、教育委員会事務局学校再編整備課長の鈴木と申します。

会議に入る前に、1点お願いがございます。会議録作成のため、録音をさせていただきます。本日の会議録は、発言者のお名前を伏せた状態にして、ホームページに掲載いたしますので、御了承ください。よろしく願いいたします。

説明会に入る前に、お手元に配付してございます、資料の確認をお願いいたします。

まず、説明会次第。

次に、令和7年度白浜地区学校再編検討委員会委員名簿。

次に、本日の席次表。

次に、資料1から資料4までをホチキス留めしたもの。

配付物は以上の4種類となります。不足等はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ただ今から、白浜地区学校再編に関わる地区説明会を開会いたします。

2 委員長挨拶

進行 次第の2、委員長挨拶。

山崎委員長から、挨拶を申し上げます。

委員長 皆さん、こんばんは。

夜分お疲れのところ、また年明け早々のこの時期に、この説明会のためにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。そして、検討委員の皆様、オブザーバーの皆様、大変お疲れ様でございます。

ただ今紹介されました、委員長の山崎と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは座って失礼いたします。

私ども白浜地区学校再編検討委員会は、白浜小学校の再編に対して、白浜地区の保護者の皆様や地元住民の皆様と情報を共有しながら、意見交換をし、それをもとにして、委員会内で協議・検討を重ね、白浜地区の学校再編に関する方針をまとめ、その結果を市へ提言するという役割を仰せつかっております。

本日は、子どもたちを取り巻く様々な不安要素を解消して、良質な学校環境を保持するとともに、さらに向上させるために、これからどういう選択をすれば子どもたちの将来にとって最善なのかを、皆様と一緒に考えるために説明会を開催いたしました。

後ほど事務局のほうから、市全体の小学校の生徒数の推移見込み、またその中で白浜小学校が置かれている現状、そして、仮の話としてですね、千倉小学校と統合した場合についての説明があります。説明があった後に、皆様からの貴重な御意見を頂戴する段取りとなっておりますので、白浜地区の子どもたちのために、忌憚のない御意見をお願い申し上げます。

簡単ではございますけれども、挨拶とさせていただきます。本日は、よろしく願いいたします。

3 教育長挨拶

進行 ありがとうございます。

続いて、次第の3、教育長挨拶。

三幣教育長から挨拶を申し上げます。

教育長 こんばんは。

地区の皆さん、そして再編検討委員会の皆さん、夜分に御出席いただき、大変ありがとうございます。

今会長のほうからもありましたが、私ども、白浜小学校と千倉小学校の統合ということで、再編検討委員会を組織して検討を始めていただいております。

今日は、地区の皆さん方にどういう状況かということをお説明いたしまして、今日の質疑、あるいは御意見をいただきまして、再編検討委員会の協議を検討委員の皆さん方にお願います。そういう形になっております。

私ども、再編検討委員会を立ち上げますのは、おおむね二つの学年が一緒になって、一つのクラスで、一つの教室で勉強することになる複式学級、国の法律でそうなっておりますけど、要するに学年の子どもたちの数が一桁になってきた場合について、これまで十数年間に渡りまして、富山地区・富浦地区・白浜地区・千倉地区・丸山地区・和田地区で学校再編を進めてきております。

当白浜地区におきましても、今年度の1年生の入学者は、5人でした。その後転入してきていまして、現在6名で白浜小学校の1年生は過ごしております。この後、私どもが把握しておりますところでは、5人の学年が二つあります。4人の学年が一つ想定されています。4人の学年でいいますと、男の子1人・女の子3人という、こういう状況にあります。

私どもとしましては、いろんな問題がありますけど、この5人で同じ学年で6年間過ごすのか。あるいは、男の子1人・女の子3人の4人で6年間、小学校生活を送らせるのか。この辺は、私どもは一番課題だと思っております。

私どもとすると、これは統合して、人数が多くなった学校生活を送らせたいと思っております。このあたりが、皆さん方がどのような御意見をお持ちか。あるいは、どのような御懸念をお持ちか。私どもとしては、今日の会議、そのようなところを

十分いただきたいと思っておりますので、御懸念、あるいは内容についての御質問、あるいはお考え、忌憚のないところでいただければ、大変ありがたいと思っております。

どうかよろしくお願いいたします。

4 委員紹介

進行 ありがとうございます。

続きまして、次第の4、委員紹介です。

お配りしてある、令和7年度白浜地区学校再編検討委員会名簿と、席次表を御用意ください。

本来であれば、委員お一人ずつ、お名前を御紹介するところではありますが、速やかに説明会に移り、皆様から御意見を頂戴する時間をとりたいと思いますので、委員名簿と席次表を御確認いただき、御紹介に代えさせていただきます。

御理解のほど、よろしくお願いいたします。

5 説明

進行 続きまして、次第の5、説明に移ります。

ここからは、山崎委員長に進行をお願いいたします。

委員長 それでは、次第の5、説明に入ります。

(1)「白浜地区の小学校の現状について」、(2)「白浜地区の小学校再編(案)について」とありますが、こちらについて事務局から説明をした後、次第の6、質疑・意見交換で、皆様の御質問や御意見等をお受けしたいと思います。

それでは、事務局からの説明をお願いいたします。

事務局 それでは、次第の5、説明の(1)「白浜地区の小学校の現状について」、説明いたします。

先ほどの教育長の挨拶の中でも少し話がありましたが、教育委員会の立場としては、子どもたちの教育環境を考えたとき、一クラスの人数が極端に少なくならないよう、一定の規模の学校を維持していくことが望ましいという考えを持っております。本日はそのような観点から、子どもの人数推移や複式学級などの、非常に小規模な学校の特徴や課題について御説明いたします。後ほど、質疑・意見交換のお時間がございますが、ここでいただく様々な御意見等を持ち帰り、白浜地区学校再編検討委員会にて協議・検討して、小学校の再編の方向性を決めていくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料1「南房総市立小学校児童数 推移見込み（市内全地区）」を御覧ください。この表は、令和7年5月1日現在で、住民基本台帳と学校基本調査をもとにして、市内の児童数の推移見込みを作成したものになります。

表の左側が地区別に見る1歳から6年生までの人数、表の右側が令和7年度から令和13年度までの小学校の児童数推移見込みとなっています。推移見込みについては、下のほうにグラフをつけております。どの地域においても児童数の減少が見られており、令和7年度と比較して令和13年度までに、全児童数でおよそ60%程度まで減少する見込みです。この表は、あくまで見込み値でございますが、これまでの市内の出生数からすると、今後も減少傾向であることが予想されます。

続いて、資料2を御覧ください。こちらは先ほどの表から、白浜地区と千倉地区について取り出した資料になります。表1の白浜地区・千倉地区児童数を御覧ください。令和7年5月1日時点の白浜地区の児童数は、小学2年生から6年生は15人前後となっておりますが、小学1年生から下の年代は一桁の人数が出てきます。

下の、表2を御覧ください。表1の人数をもとに、今後、白浜小学校のみで経過した場合の各学年の通常学級の人数と学級数を、年度別に表した表になります。現在の千葉県の学級編制基準は、小学校は一クラス35人学級で運用されております。この学級数は通常学級の人数をもとに編制しますが、将来の特別支援学級数の予測ができないため、令和7年度5月1日時点の通常学級の人数について灰色の網掛けのマスで反映させております。

表を見ていただくと、白浜小学校は現在、各学年一クラスずつとなっており、令和9年度からは複式学級に該当するような人数となる学年が出てきます。転入や転

出等によって変わる可能性はありますが、このまま推移しますと、令和11年度に複式学級が二つできる見込みとなっております。

複式学級とは、二つの学年を一人の先生が受け持つ学級のことで、先生は授業の際、二つの学年を交互に見ながら指導をします。複式学級になる基準については、次のページにまとめております。小学校における基準は、①小学1年生とその上の学年の児童数の合計が8人以下の場合。②小学1年生を含まない2つの学年の合計が16人以下の場合、となっております。

続きまして、教員配置数について記載しております。教員の配置基準は法律で定められており、様々な規定がありますが、市内の小学校の規模で言いますと、1つの学校には、校長先生・教頭先生が1名ずつ、そして教諭については、学級数プラス1名が配置されます。学級数によって先生の配置数が決まることから、複式学級になり学級数が減ると、先生も減るということになります。

複式学級が一つの場合は、プラスされた1名の教員にも担任を持ってもらうことで6学級の運営を続けることも可能ではありますが、複式学級が二つになると、教員が足りず、複式学級での運用をしていくことになります。

続いて表3は、仮に千倉小学校と統合した場合の推移となっております。全校で12学級を下回る規模の学校は、小規模校とされておりますが、千倉地区についても児童数が減少しており、現在の千倉小学校は11学級の小規模校となっております。仮に二つの小学校が統合した場合も、12学級以上の標準規模には届かず、全ての学年で二クラスを維持することは難しい状況ではありますが、複式学級の発生は当面ないことが予想されます。

続いて、資料3を御覧ください。こちらは文部科学省が作成した、学校の適正規模・適正配置に関する手引の抜粋で、学校の規模が教育環境にどのような影響を及ぼすかの参考になりますので、こちらをもとに御説明したいと思います。

めくっていただいて裏面の5ページ目に、学級数が少ないことによるメリット・デメリットの表があります。このメリット・デメリットというのは、人によって捉え方が変わるものですので一概には言えませんが、これは12学級を下回るような学校の特徴として挙げられているもので、南房総市内全ての学校がこれに該当しています。

保護者から見て良いと感じることが多いメリットとして、①に書いてある「きめ細かな指導」が受けられるという点がよくあげられると思います。一方、デメリットの例として、⑥の男女比の偏りが生じる場合があります、例えば白浜小学校でも、6年生の人数が男の子3人、女の子12人と、人数の偏りが出ている学年もあります。

このように、白浜小学校においても、メリットの①のような少人数による良い点がある一方、デメリットの影響も出ている状況があると思います。白浜小学校では今年の1年生の人数が極端に少なかったことにより、運動会や体育の授業などで課題に直面した場面があると伺っておりますが、これはデメリットの⑤集団活動・行事の教育効果が下がるや、⑧の集団学習の実施の制約に該当し、また②のような互いに切磋琢磨するような環境も作りにくい状況になっています。このような課題は、児童数の減少に応じて一層顕在化していくということが懸念されるところであり、複式学級になると、これに加え、さらに課題が生ずる懸念があります。

5ページの下のほうにあります(3)、複式学級になった場合の学校運営上の課題として、五つ挙げられていますので、読み上げさせていただきます。

①教員に特別な指導技術が求められる。②複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい。③単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがあること。④実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる。⑤兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約が生ずる可能性がある、というような影響を与える可能性があるとしてされています。

これらの懸念があることから、教育環境を考えた時、教育委員会としては複式学級にならない学校規模を維持したほうがよいとの考えから、小学校においては複式学級の発生が懸念される場合を、学校再編の検討を開始する目安としております。

さらに、(4)教職員数が少なくなることによる学校運営上の課題として、多面的な指導や評価が難しくなったり、教員の校務・行事の負担の増加、教員が切磋琢磨したり研修を受ける機会の減少、学校が直面する課題への組織的な対応力など、11の例が挙げられておりますが、これらの問題が顕在化し、結果として教育活動に大きな制約が生じる恐れがあるとしております。

仮に、これらの課題が生じた場合、(5)学校運営上の課題が児童生徒に与える影

響として九つありますが、①集団の中で自己主張したり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい。②児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい。③協働的な学びの実現が困難となる。④教員それぞれの専門性を生かした教育が受けられない可能性がある。⑤切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。⑥教員への依存心が強まる可能性がある。⑦進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。⑧多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい。⑨多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい、というような影響を与える可能性があると考えられています。

7ページの最後には、学校統合することによる課題というのを上げております。

①通学区域の拡大。スクールバス通学となり、運動不足が懸念されます。また、通学時間が長くなることにより、家庭学習の時間が減少することが懸念されます。

②児童生徒にとっての環境の変化。学校統合による学習環境の変化や生活環境、教職員との関係等が大きく変化するため、新たな生活に戸惑いが生じることに配慮が必要となります。

③地域から学校が無くなる。学校の位置については今後検討されていく内容となりますが、統合の結果、学校がなくなってしまう地域にとっての話になります。学校施設は、生徒の教育のための施設であるだけでなく、地域コミュニティの核として防災・保育・地域交流の場等の役割を持っているため、統合することにより、学校と地域コミュニティの希薄化が懸念されます。

学校統合の際は、これらの課題解消に努めていくこととなります。

事務局 続きまして、資料4を御覧ください。こちらは、市が提案する白浜小学校の再編案です。

ここまで御説明しましたように、教育委員会としては複式学級の生じる規模では課題が多くあると認識しており、学校の統合が可能な範囲であれば、統合をし、一定の学校規模を維持していくことが良いという考えを持っております。そのため、市の提案は「白浜小学校と千倉小学校を統合する」としています。

千倉小学校との統合を検討する理由を、アからエの4つにまとめております。

ア 児童が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくためには、統合により、児童数を確保することが望ましいと考えられるため。

イ 白浜小学校は、現在、各学年1クラスだが、今後複式学級が発生することが見込まれている。統合することにより1～2クラス編制が可能となり、複式学級の発生を解消できるため。

ウ 学級数が少ないと、配置される教員も少なくなり、教育活動に制約が生じることが懸念されるが、統合することによって教員の配置数を確保でき、より良い教育環境を提供できるようになるため。

エ 統合小学校の校舎を、白浜小学校又は千倉小学校のどちらかの校舎を使用するとした場合に、白浜地区及び千倉地区のどちらからでも、30分程度でスクールバスを使用した通学が可能であるため。

また、学校の再編時期、学校の位置、学校の名称に関する事項については、統合する相手の地区と協議をしながら進めていくべき内容であるため、白浜地区と千倉地区の検討委員会がそれぞれ、統合するという方向性で一致した後、白浜地区及び千倉地区学校再編検討委員会の合同会議を開催し、協議・検討するものとしています。

今後、この市の提案をたたき台に、地域の皆さまの御意見などを伺いながら、白浜地区学校再編検討委員会で御協議・御検討いただいて、白浜地区の学校再編の方向性を出していただく予定です。

以上で説明を終わります。

6 質疑・意見交換

委員長 説明が終わりました。

それではこれより、次第の6、質疑・意見交換に移りたいと思います。

ただ今の説明に対して、御質問・御意見や、その他聞きたいことがある方は、挙手をお願いいたします。事務局のほうでマイクをお持ちしますので、自席にてお待ちください。マイクが届きましたら、お名前を述べてから、御発言をお願いいたし

ます。

どんなことでも結構でございます。それでは、よろしく願いいたします。

参加者 子どもの数が減ってくるんでね、再編はやむを得ないかなとは思いますが、仮に白浜小学校が廃校になったときに、白浜小学校をどのように残すかというような、何か考えはあるんですか。試案のようなもの。

委員長 はい、お願いします。

教育長 千倉小学校と白浜小学校、いずれかが廃校になることが想定されます。現在の段階では、まだ統合するとか、そういうことは結論が出ておりませんので、全くプランは持っておりません。

学校再編が進みまして、学校統合に決まりまして、どちらかの校舎を使わないということがわかりましたら、まず段取りとしましては、公的に、市として何かそこを使うのか。その検討が一つあるかと思えます。もし公的なものとして使わないとなれば、どんな形で、民間にとか、そういったものの検討になります。校舎そのものを使わなくなっても、例えば緊急時の避難場所として体育館を残すとか、そういったことも検討の課題になっていきます。

御質問の趣旨から言いますと、今の段階では全く白紙であります。

以上です。

委員長 よろしいでしょうか。

はい、どうぞ。

参加者 2年生に娘がいます。よろしく願いします。

今の質問のお答えなんですけれども、考えますと、今も白浜中学校の校舎がそのままです、後に何をするかというのが決まっているのか決まっていないのか、住民にはわからない状態です。

その前例がある中で、今回白浜小がもしかしたら廃校するかもしれない。千倉の

ほうに行く。もしくは白浜のほうに来る。わからないんですけども、そうなるときに、どうなるんだろうっていうか、住人としては、白浜中があのままなのはどういうふうに考えているのかなという思いはあります。

いくつか質問があるんですけども、一つずつのほうがよくいいでしょうか。

委員長 お願いします。

教育長 旧白浜中学校ですね。白浜中学校の跡地については、御懸念いただいて大変申し訳ありません。

今ですね、裁判所のほうに手続きをとっております。といいますのは、あの広い敷地ですね。広い敷地の中に民地がありまして、面積としては少ないわけですけど、何筆かの民地がありまして、その相続人とかそういったものも不明な土地もありまして、今それをどういう形で市有地にしていくかとか、そういったことについて今手続きに入っておりますので、これが終わりました後は、例えば公設で何か建物を建てる場合も可能になってきますし、あるいは今の校舎をいろんな別の用途で使うというようなことも可能になってきますので、私どもは気がつかなかったんですけど、いざ校舎を廃校にした後、調べていった段階でそういうのがわかりまして、その手続き中でありまして、これが終わり次第、具体的な検討に入っていく予定になっております。

他のところも、そういうものについては、底地も、誰の所有なのかとか、そういったものを確認していかななくてはいけない課題だと思っております。

参加者 建てるときには気づかなかったんですか。

教育長 もう何十年前になります。白浜町で、建てるときにそのあたりは気づかなかったといいますか、確認できていなかったっていう。

これはですね、他のところも、他の町村でもありまして、例えば体育館を大規模改修するというところで工事を始めていて、建物の確認申請をする段階になりましたら、体育館そのものは登記してなかったとか。数十年前ですね。30年前・40年

前のそういった手続きは、だいぶ届かなかったところがあるっていう。

それについては白浜だけに限ったことではなくて、他地区にもあるということで、今回白浜中については大変申し訳ないんですけど、当時どういう経緯であったかわかりませんが、民地がそのまま残ったまま、建設等が進んでいたということで御理解いただければと思います。

参加者 立て直してからまだ新しいとは思いますが、まだ何十年も……。

参加者 合併してからです。南房総市になってから建てた。

参加者 そうですね。

何十年も昔の話ではないと思うんですけども、なんかそういうところが杜撰なのかなと今聞いて思いましたけど。

教育長 運動場のほう（※）にあるわけですね。ですから、そこまで確認しないで、これまでも白浜町の土地であったわけで、これは当然、全て公有地、市の土地だという思い込みで進めていたと思います。

結果的には大変申し訳ない状況だということで、お詫び申し上げるしかないと思っています。

（※以前の運動場側、現校舎側に民有地がある。）

参加者 ありがとうございます。

あと何件かあるんですけどもよろしいですか。今の1年生の人数が6名って書いてあるんですが、7名いると思うんですけども、私の間違いだったらごめんなさい。男子が2名って書いてありますが、男の子は3人いると思うんですが、いかがでしょうか。前回、学校で説明会をされたときも、確か6名ってなっていたんですが。

教育長 先ほど資料1の冒頭に申し上げましたが、5月1日現在での数字になっています。

すので、現在の状況については、大変申し訳ないんですけど、校長がいますので、校長のほうから。

白浜小校長 5月1日現在は6名で、その後転入があつて、今現在7名。資料は5月1日現在なので、6名という数字になってます。

参加者 はい、わかりました。

小さい学校が悪いみたいな感じのお話になっていると思うんですが、例えば学校を越えて、今も交流はされてると思うんですけども、その回数よりももっと多く交流をしていったりですとか、例えば行事を合同にしてみるとか、統合しなくても他に方法っていうのがないのかなって思います。だから、少人数でしかできない地域の人との関わりですとか、そういうのを大切にできるのが、少人数のいいところじゃないかなと思うんですけども。

あとは、防災のときに廃校してしまっていたら、学校自体が機能するのかどうかということも思います。素人考えですけども、そんなに統合して行って、先生は余らないのかなとか、そこも考えたりします。

あと、白浜に行くにしても千倉に行くにしても、30分圏内で行ける範囲って書いてありますけれども、うちは根本なんですけど、もし千倉に行くとしたら、30分では絶対行けないと思います。ましてや乗り降りの時間を考えれば、必ず30分を超えらると思いますし、普通に行ったら30分以上かかる距離なので、それは子どもに対しては負担がかかるんじゃないかなと思います。

以上です。

委員長 はい、よろしく申し上げます。

教育長 一番最後のバスに乗っている時間ですね。

これについては、私どもは試行をしています。これは中学校の場合でもしていますので、例えば、根本から千倉の駅近辺ですよ、そこまで子どもたちを乗せて、順次行くっていうことでやっていくと、かなり時間はかかると思います。中学校の

ほうもそうなんですけど、根本からスタートして、例えば千倉地区まで順次乗っけていくという方式はとっておりません。例えば根本で乗せて、白浜駅ですか、この辺まで乗っけて、どのくらいの数になるかわかりませんが、あるいは白浜中の跡地ですね、あのあたりまで子どもたちを乗せて、後はノンストップで行くっていう、そういう方式をとっています。2便走らせて、2便のほうは白浜中学校のあたりから子どもたちを乗せて、乙浜まで行って、後は千倉までノンストップで行くっていう、そういうような形をとって、試しにバスを走らせて、時間を確認しておりますので、おおむね30分で十分通える、そういう判断をしております。

2点目ですけど、学校統合によって教員が余るのではないかってことですけど、教員は、もし2校が統合して、今まで20人いたものが15人で済むとすれば、その5人は他所に転勤しますので、決して働き場所がなくなるとか、そういうことではありませぬので。

あとですね、少人数ですけど、少人数の考え方がやはりちょっと違うというか、私どもの認識と違うことは、先ほど説明の中で学校の規模の話をしました。今、南房総市の学校は全て、標準規模の学校ではなくて、小規模校になっております。これは学年二クラスの学年があって、6学年で12学級以上ですと、標準規模となります。11学級以下ですと、小規模校となります。少人数学級というのは、決して4人・5人のことを言うのではなくて、35人で一クラス、これが基準です。36人になりますと、二クラスになります。18人・18人。

いわゆる少人数というのは、例えば35人で、ギリギリ一クラスで、これでは例えば算数の勉強・国語の勉強で人数が多すぎるから、二つに分けてやる。17人と18人に分けてやる。こういうのが、いわゆる少人数の指導になってきます。

ですから、15人以下とか、あるいは10人以下になってきますと、もうこれは少人数を超えて、極めて少ない数の学級ということになります。そういうものは、できるだけ防いでいかななくちゃいけない。そうなる前になんとかしていかななくちゃいけないということで出されましたのが、平成27年の1月に文科省のほうで出しました、学校の適正規模、学級の適正規模ということで、今申し上げたような、極めて少ない5人・4人、あるいは10人以下の学級ができないように、学校統合とかそういうものを進めていきなさいよという、そういうようなことになっています。

私どもが皆さん方をお願いしたいのは、冒頭の挨拶で申し上げましたが、学年4人・5人で小学校生活を送らせることが、果たしてその子どもたちにとって効果のあることなのか。良いことなのか。この辺のところを十分お考えいただいて、結論を出していただければという。これは再編検討委員会にもお願いしてることで、そういうことになります。

少人数学級というのは、4人・5人のクラスのことを言うのではないということ、御理解いただければと思います。

三つの質問でよかったですか。もう一つありましたか。

参加者 あと、防災のときの、もし廃校してしまった場合に、学校として機能するのかどうか。災害の避難場所として、学校が機能するのかどうかということが気になります。統合してしまえば、やっぱり学校も使っていないので、校舎自体も廃れていきますよね。そういうときに、住民の皆さんを守る場所として使えるのかどうかというのが。

教育長 先ほど一番最初に御質問ありましたけど、廃校になった場合の校舎をどうするんだって話がありましたけど、校舎については災害云々も考えて、その後の利用・利活用は考えていきます。

あともう一つは、他の地区にもありますけど、例えば七浦あるいは和田小、こういったところは避難場所として考えて、体育館は社会体育施設として残しています。ですから、通常、地区の方々が運動とかそういった形で体育館を使って、万が一の場合については避難場所、そういったことを想定して残しております。当然、白浜地区・千倉地区についても同じような考えになるかと思えます。

参加者 ありがとうございます。

私が今一番懸念してるのは、白浜に学校が一つもなくなってしまうっていうのが、とても怖いことだなと思います。人口が減ってるっていうのは、この資料でよくわかりますけれども、これでまた学校が一つもなくなってしまうと、さらに過疎化が進んでしまうと思いますし、それによって生じる影響というのがすごく大きいと思

うんです。小さい学校だからといって統合するのではなくて、小さいなら小さいなりにいいところを探して残すっていう方法を考えられないでしょうか。

教育長 私どもは、何が何でも統合して、白浜小学校を廃校にするとか、そういう考えは持っておりません。

地区に学校がなくなったというのは、既に和田地区でも小学校・中学校がなくなっています。それでも、5人・4人の集団で小学校生活を送らせることと、学校がなくなることと比較して考えて、統合の道を選んだのが、和田地区だと思っております。旧丸小学校区もないわけですね。

これは、私も今説明会をやっておりますけど、皆さん方の御意見をいただいて、再編検討委員会でそのあたりの結論を出していただくということを考えております。白浜地区の方々が、1学年4人・5人でもいいんじゃないか。それでも白浜に小学校を残そうっていう結論でしたら、私どもはそれに従う。そういう立場であります。

あと、子どもの数が少なくなってきたからってことなんですけど、私どもがもう一つ懸念していますのは、例えば、さっき4人の学年があるという話をしました。男の子1人・女の子3人の学年ですね。私どもの今までの過去の経験で言いますと、この男の子が他の学校を選ぶ可能性も出てくるということです。具体的にはですね、丸幼稚園で、男の子が9人程度、女の子が1人だった。そういうような学年が生じたときに、その女の子1人は幼稚園の段階から隣に移りました。したがって、幼稚園2年間と、小学校を統合するまでの小学校4年生までは、男の子だけのクラスでした。

ですから、私どもとすると、少ない人数だけど頑張ってやっていこうという、移住してくる人がいるだろうという、そういう想定も十分できるわけなんですけど、逆にそういう教育環境であれば、違った場所を選んでしまう、そういうような決断をする家庭が出てくることも想定されるという。両面考えなくちゃいけないと思っております。

委員長 よろしいですか。

参加者 わかりました。ありがとうございます。

委員長 他に御意見等ございますか。

お願いします。

参加者 すいません。何点か質問事項があるんですけども、まず、資料の7ページに書いてあります、学校統合による課題っていうのが3つ書かれていると思うんですけども、現時点で結構ですから、この課題について、どのような対応を図ろうと委員会の中で動いているのかを聞きたいです。今のが一つですね。

あと、教員の加配。ある程度の条件がないと、加配がたぶん受けられないと思うんですけども、どの程度の条件が揃えば、教員の加配が可能なのか。また、免許外の資格についてですね。自分の専門以外の教科を教えなければいけない可能性があるというようなことが手引きの中で書いてあったんですが、免許外の資格を、たしか教育委員会のほうに申請すれば、3年間の任免ですか。臨時免許が出て、その3年間の中で資格を取りなさいというようなことがあったかと私は記憶しているんですけども、そういった形で、専門性をその3年間の中で教員のほうに十分得てもらったり、そういう資格を取るための業務が増えるのであれば、それを参考に加配を検討できないかなというようなことを考えています。

もう一つ。先ほど白浜小学校を廃校にするのか、それとも千倉の小学校を廃校にして白浜にもってくるとか、それは当然、どちらの意見もいろいろ出ているとは思いますが、経済的なことを考えれば、スクールバスを出す台数が増えたりとか、そういったことを考えると、白浜のほうを廃校にして、千倉のほうに運びたいっていうような、先ほどのスクールバスの状況の説明のときには、そういったように受け取れるような内容だったと思うんですけども、実際に千倉小学校から白浜小学校に移ることが検討されていたのか。

あと最後にですね、先ほどのお話の中で、白浜中学校の中に民有地があって、それがわからなかったって言ったんですけど、私は昔、学校の事務をしてまして、毎年5月1日にですね、学校の土地ですとか建物についても調査があって、文科省のほうにそれが上がっているはずなんですね。そこには、私有地があれば私有地の部

分を記入する欄があったはずなんですね。それが、正しく文科省のほうに上がって
いなかったということなんでしょうかね。その辺もとても不思議に思いましたので、
御解答いただければと思います。

教育長 土地の登記、所有者の面ですけど、私どものほうで調査して報告するものについ
ては、そういう内容は含まれていなかったと思います。全体の広さとか、そういつ
たものについては報告する義務が、運動場は何平米とか、敷地がどのくらいとか、
そういったものはありますけど。非常にですね、細かく分筆されてるわけですね。
その中の一つがなかったということで、ですから、これまでトータルで考えていて、
細かいところまでの調査とか確認っていうのは、今までなされなかったという。こ
れは大変私の手落ちだと言えはそのとおりなんですけど、今回改めて細かく確認し
ましたところ、そういうところが出てきたということで、御理解いただくしかない
ということですね。

それと、校舎の位置等に関しては、まだ検討しておりません。これは両地区で統
合しようという方向で、合同会議の段階になりましたら、それぞれの校舎を使う、
そういうことのいろんな比較ですか。そういったものは具体的に出していきたいと
思っています。

免許外の話がありましたけど、小学校ですので、基本的には免許外は生じてこな
いというふうに考えております。免許外というのは、例えば理科の教員が、人数の
関係でどうしても一人足りなくて、数学の教員が、理科も免許外申請をして、それ
で理科を教えるとか、そういうことは中学校ではありますけど、小学校ではこれは
考えられません。

ただ、小学校で考えられるのは、学校に配置される教員の数が少ないわけですし、
その中でどうしても必要とされる音楽とか、あるいは全校の指導に当たる音楽・体
育、こういったものについて、もしかするとその専門的なものがちょっと弱い教員
で構成されてしまう可能性はあるということで、基本的には、さっき申し上げまし
たように、免許外の教員が配置されるというのは、小学校ではありません。

それと、一番最初の加配ってことなんですけど、これはさっき説明の中で申し上げ
ましたが、基本的には小学校は学級数プラス1の教員が配置されます。この他

に、さらに教員を配置してほしいということは申請するわけですけど、例えば少人数指導の加配がほしいといったような場合については、先ほど申しあげましたけど、少人数というのは4人・5人ではなくて、35人を基本としたときに、例えばギリギリの35人とか34人のクラスがある。この場合については、二つに分けて算数の指導をなさっていうようなことで、加配が一人つく場合があります。ですけど、専科加配につきましても、少人数加配につきましても、白浜小学校の規模は、これは当然要望しても加配が達成される見通しはないというふうに、私どもは判断しております。

7ページの課題の三つなんですけど、1番につきましては通学時間が長くなるとか、こういったものについては、今までの学校統合で起きていないというふうに考えていただければと思います。徒歩で通っていたときよりも、バスを利用することによって、家を出る時間が少し遅くなったとか、あるいは通学時間が歩いていくときよりはかからなくなった。こういうことが、私どもは聞こえてくる声としては把握しております。

二つ目の児童生徒にとっての環境の変化。これは大変大きいものだと思っておりますので、今まで学校統合した学校には、職員一丸となってやってもらっていますけど、まず子どもたちの表情・様子を観察すること、よく見ること、声をかけること。もう一つは、各学校ごとで統合した後のテーマをもって、それに向かって全校生徒が取り組んでいますので、大変ありがたいことに、おかげさまで統合した後の学校は、どの学校も子どもたちが喜んで通学している。そういう状況を作り出している。こんなふうに把握しています。

1番の運動不足っていうのがあります。これにつきましては、4・5年前に取り組んでいますのは、各小中学校で週2日か3日の5時間の日をつくっています。これは、ここに書いてあります、運動不足を解消するという意味もあります。それと、なかなか子どもたち同士で遊ぶ機会がないという。コロナ禍で特に強くなってきたわけですけど、それを解消するために、通常でいきますと5日間毎日6時間なんですけど、その授業を精査いたしまして、千倉小学校でいいますと、週3日は5年生・6年生でも5時間授業の日になってます。昼休みの時間を長くしたり、スクールバスの帰る時間は同じですので、スクールバスの時間までが子どもたちの遊ぶ時間に

なってます、私どもは「三つの間」ってことで言ってますけど、仲間・時間・遊ぶ空間ですね。この三つを大事にしようということで、運動不足あるいは人間関係が希薄になる、こういったものの解消に努めています。

三つ目ですが、地域から学校がなくなるということですが、確かに学校の施設そのものはなくなりますけど、校外学習、そういったものについては、学区が広がった分、それぞれのもとの学区の分まで郊外学習の範囲を広げて、子どもたちが勉強するような、そういうような形もとっております。

あとは、冒頭から出ていますが、この跡地をどうするかということも、地域から学校がなくなった場合、それも大きな観点として考えていかなければいけないと思っています。学校に代わるものとか、そういったものを当然視野に入れて、検討を進めていくことになるかと思えます。

委員長 今の回答でよろしいでしょうか。

参加者 もう一点だけ。

先ほど、もし廃校になった場合は、社会体育施設として、体育館はいろいろな活動のために使い、避難所としての条件を認めるということだったんですけど、実際白浜町で大きな地震があつて、白浜小学校・中学校と避難所がありますけれども、体育館で何人の方がそこに避難できるかというのは、皆さん、数えてあるんですかね。たしか一人3.5平米くらいは必要なんで、あそこの体育館に入っても、100人入れば満杯ですよ。そうすると、避難所として使うのであれば、例えば病院の方が、感染症にかかっている方は、別の部屋に行ってもらうとか、そういったことまで全部考えて、その施設を再度利用できるような形で残してもらってことが、地区としては、大きな災害があつたときに「じゃあどこに行けばいいか」というようなことにもなりますので、消防防災課のほうに意見も十分伺って、その辺を検討して、どこまで使えるように残すかというのを十分検討していただきたいと思えます。

あと、市のほうでは、2拠点生活とかIターンとかUターンとか、あとは空き家に関するいろいろな業務をやっていると思うんですけど、先ほど言ったように、地域

に、小学校・中学校のないところに、果たしてIターン・Uターンする希望者がいるのか。市の施策と反する意義の政策が同時に進んでるんじゃないかっていうふうには、市民としては考えています。

それぞれの施策にお金を使ってるわけですので、本当にこれでいいのかなというふうな気持ちではあります。その辺については、十分に市の中で整合性のある施策をやっていていただきたいなという希望です。以上です。

教育長 避難所につきましては、今お話がありましたように、消防防災課が中心になって決めていきます。体育館を残した場合について、災害が起きた後の何日間か過ごすような施設になるのか、あるいは一時的に避難する、雨風をしのぐための一時的な避難場所になるかとか、そういったところも含めて、白浜地区全体で総合的にどこを一時の避難場所にするのかとか、あるいは数日間避難できる場所をどこにするか、そういったものについては消防防災課のほうで総合的に判断して決定することになると思います。

私が今申し上げたのは、可能性として、体育館が一時避難場所とか、そういったことの価値があれば、当然社会体育施設として残して、そういう体育の面でも活用していきますし、一時避難場所としても活用していくっていう、そういうようなことになる。その可能性をお話ししましたんで。

それともう一つですけど、全体的な市の施策の関連ですけど、例えば和田地区には学校がなくなりました。和田地区については、移住者は来ています。

あと、平群地区もですね、平群小学校がなくなりましたが、平群地区にも移住してきている人たちはいます。平群小学校と岩井小学校の話し合いのときに、あるおばあさんが発言したのはどういうことかって言いますと、息子が君津地区で今生活している。平群小学校が統合しないで、このまま残るようだったら、自分は帰らない。平群小学校と岩井小学校が統合して、新しい学校になったら帰る。こういうことを息子は言っているっていう。

ですから、学校がなくなるって発想もありますけど、学区が広がるという発想をぜひしていただきたいということですね。統合しても、白浜地区には小学校はあるんだ。白浜地区も新しい学校の学区の中にあるんだっていう。

今まで100年以上歴史があるわけですが、小学校・中学校については、統合を繰り返してきているわけですね。その都度、学校の規模、大きさっていうものを求め続けてきているわけですし、そういうものを考えますと、長尾小学校と白浜小学校が統合しました。長尾地区には学校がなくなったというような受け取り方をしたかと思いますが、当然学区が広がったんだという、そういうような理解をしていただいたんだと思っています。ですから、学校が小さいまま残ることのデメリットもあるんだという。それは御理解いただければと思っております。

何より考えなくちゃいけないのは、繰り返しになりますけど、1学年4人・5人で小学校生活を送らせることはどうなのか。このことは、一番真っ先に考えて、この白浜地区で結論を出していただければというのが、教育委員会の一番の基本的な考えです。

委員長 それでは、他に御質問・御意見等あればよろしくお願いします。

はい、どうぞ。

参加者 まず学校統合するにあたって、子どもたちに聞き取りとかしたのでしょうか。子どもに聞くのが一番だと思うんですけど、大人だけで考えてもしょうがないと思うんです。子どもたちの意見を聞き取りをしたかどうか聞かせてください。

教育長 子どもたちに聞いたかということですけど、結論から申し上げますと、聞いていません。今までどこの地区でも聞いていません。

参加者 なんですか。

教育長 例えばですね、今私どもが懸念しているのは、過ぎた5月1日現在で、1歳の子たちが5人、2歳が10人、3歳が4人、4歳が5人です。この4歳・3歳・2歳・1歳の子に、あなたたちの小学校生活はこの人数でいいのか……。

参加者 いや、小学校の人。小学校の人に聞いたのかな。

教育長 小学校5年・6年に聞いておりません。これは、大人が今まで歩んできた道とか、そういうものを振り返って、この人数でいいのかどうか、これは大人が判断すべきことだと思っています。

参加者 なかなか、歩んだといっても、ずっと何十年も歩んでないわけなんです。2・3年のお話で進んでるような感じがしてしょうがないんですが、どうでしょう。

教育長 歩んできたっていうのは、例えばあなた自身が、数十年人生を重ねてきたわけですよ。小学校生活も送ってきた。中学校生活も送ってきた。それを振り返って、大人の私達が判断すべきことだ。そんなふうに考えているわけです。

参加者 今までそういう経験は私どもはしてないんですけど、ここに来て初めて少人数になって、統合について話をしていると思うんですけど、子どもの意見、これからこうやって千倉まで通わなきゃいけないんだよ、どうする。そういうのも大人だけの考えじゃなくて、子どもたちはどう思っているか、その辺を聞いてほしかったかなって思います。

以上です。

委員長 はい、どうぞ。

参加者 このような機会をありがとうございます。

私は小3の息子と、5歳の娘、1歳の娘がいるので、かなりこの件に関しては真剣に考えたいなと思って、日々考えているんですけども、今のお話すごくいいなと思ひまして、小学生だからこそその意見ってあると思うんですよ。今の小学生に、これからの子どもたちに、統合どうかなっていうのを聞いてもらいたいなっていう気持ちがあります。本当に今小学生をやっている子たちに意見を聞いてもらいたいっていうのもありますし、あと南房総中に行った白浜の子たち、今実際に統合して生活している中で、統合してどうだったのかな、よかったのかな、悪かったのかな、

保護者の方たちにもこういう大変さがあるのかな、よかったのかなとか、そういう意見は実際に統合した人たちには聞いてみたいと思いますし、その子たちにも、小学校の再編に関して意見を聞いてみたいなっていうのはあります。小学校だったら少なくともいいんじゃないのとか思う子もいるかもしれないし、やっぱり小学校のうちから大人数でやるのが楽しいと思うしいよってという意見もあるかもしれないし、子どもたちの意見であったり、保護者の意見っていうのは聞いてみたいなのというの、私自身もあります。

なので、今の意見がすごくいいなと思ひまして、大人たちで話し合うんじゃないくて、今リアルに生活してる小学生・中学生の意見っていうのは、親として、これから子どもの一番いい教育環境を整えていくという責任を持っている保護者として、そういう意見も聞いてみたいなのというふうに思いました。

教育長 そういったお考えもあるかなと思います。

ぜひ御家庭で親子で話し合っていたらいいと思います。それをもとに、こういう場面で、保護者として御意見いただければ大変ありがたいと思っています。また、PTAのほうの話し合いの中で、そういった子どもと話し合っ、それでそれぞれの家庭で御意見をもって話し合いに参加していただければ、大変ありがたいと思っています。

私どもとして、それぞれ一人ひとりの子どもたちに聞く考えはありませんというのが、先ほど申し上げたとおりで、これまでも聞いてきませんでしたし、やはり私どもの経験とか知見とか、そういったものを考えて、踏まえて、子どもたちの教育のあり方については、私どもが責任持って大人の判断として結論を出していくことを私どもは考えています。

ぜひ御家庭で子どもたちと話し合っ、どんな考えをお持ちかことはやっていたらいい。そして、私どもにまたそれを会議等の折に聞かせていただければ、大変ありがたいと思います。

参加者 わかりました。

家庭ではもう話していて、息子はすごく千倉に行くことには前向きではあるんで

すけれども、他の子たちの意見も聞いてみたいなのというのがありますので、もし簡単なアンケートなどでも行えるのであれば御検討いただきたいなと思います。

あと一つ、有識者の方がいらっしゃるのでも聞いてみたいんですけども、今日本全国で複式学級というのはいくつもあると思うんですけども、全体的に複式学級というの、成功傾向にあるのか。やっぱり厳しい、教師の負担が大きいだとか、そういうデメリットのほうが大きいのか、全体的に見てどういう感じなのかなってというのが聞いてみたいんですけども。

教育長 この近隣の地区、君津地区でも学校統合が進んでいます。隣の館山市でも、来年、小学校は二つですか、学校統合することになっております。全国的には、複式学級の解消を含めて、学校統合は進んでいると思います。と言いますのは、先ほど申し上げましたように、平成27年に文科省が手引きを出しましたので、いわゆる4人・5人という極めて少ない複式学級になりそうなものについては解消して、教育環境の改善、より良い方向にもっていこうという流れの中にあります。

隣の館山市も、複式で5学級の学校が一つか二つ。4学級の学校が二つほどあるかと思います。合わせて4校程度が複式学級で、ずっと数年やってきています。これにつきましても、館山市は北条小学校と館山小学校に全て統合するということが決まっております、安房地区で唯一複式学級をもっている市なんですけど、館山市のほうも、全てこれを解消する方向で今進んでいます。

複式というのは、非常に子どもたちにとっても負担が大きいかと思っておりますので。私は経験していませんけど、これまで千倉地区の学校再編でも、今の千倉小学校は健田小学校と言ってたわけですけど、それが4年生までは分校だったわけですね。大貫分校というのがありまして、そこで4年生まで小学校生活を送る。そこで小学校生活を送った方が、再編検討委員会で小規模校、少人数でもいいんじゃないかというような意見が出たときに、即座に「それは駄目だ」という。複式を経験して育ってきた人の発言で、かなり重みがあったと思いますし、そのことで千倉地区では複式がいいというような議論は、それ以降一切されませんでした。

私どもとすると、やっぱり教員にとっても子どもたちにとっても負担が多いのが複式だと思っています。

今の回答でよろしいでしょうか。

参加者 ありがとうございます。

委員長 はい、どうぞ。

参加者 すいません。

今の子どもの意見をついていうのに私も賛成なんですけれども、教育長は前例がないと、他のところでも聞いたことがないので、子どもに対するアンケートなどを行いませんっていうふうにおっしゃいましたけれども、他の地域でそういうアンケートをしていなくても、今回初めてでもいいじゃないですか。子どもたちの意見を聞いていただけたらと思うんです。

私、今隣に娘がおりますけれども、やっぱり遠くまでバスで通うのは不安もありますし、朝早く起きなければならない。今娘が乗るバスが7時34分に来るんですけれども、学校に着くのが8時近くですので、千倉まで行くには何時に乗るんだろうとか、ノンストップで行くにしても、そこまでの間、時間かかりますし、乗り物酔いする子なんかはどうして学校に行ったらいいんだろうとかすごく考えますし、そういう子がいるかどうかわかりませんが、そういった場合に親の負担だっただけかかるとは思わないかなとか、いろいろ子どもの意見も大事だと思うんです。

子どもから聞いて親がここで発言をしても、結局大人の意見として捉えられてしまうところがあると思いますので、もし教育委員会のほうでそういったアンケートを行わないということであれば、相場校長、学校独自でそういうアンケートをしていただくっていうことはできないのでしょうか。

白浜小校長 はい。保護者アンケートは実は去年も取ってて、そこに今お話があったように、子どもの意見が一応反映されてるのかなっていうふうにも見てたんです。

なかなか学校の中で低学年も含めて取って行って、お話を聞いたりするのはいいかもしれないんですけども、アンケートを取って、その数値を集めて、さあそれをどうしようかっていうふうになったときに、この検討委員会でどうそれを扱って

いくかというところが非常に難しいとは思うんです。

ただ、お考えは、子どもたちの考えとか非常に大事かなとは思うんですけれども、それをどう反映させていこうかっていうことは、やっぱりこちらもまた考えなくちゃいけないことになると思いますし、今日はそういう意見をもらって、今後考えていくってことになると思いますので、そういうような意見があったっていうことは、私のほうも受け止めたいと思いますけど。

参加者 ありがとうございます。

教育長 アンケートをやらないっていうのは、前例がないからやらないってことではなくて、その効果ですよ。小学生の子どもに、統合したほうがいいっていう、そういうことを聞くことの意味というか、効果がどれほどあるのかなっていうのは、やっぱり先ほどから繰り返し申し上げてますが、我々が大人の責任で、やっぱり子どもたちの教育をどういう環境でやったらいいかっていうのは、私どもが責任持ってやっていくことだと思っております。

ただ、今御心配のように、負担だとかそういうものは十分考えなくちゃいけないと思っています。したがって、バスの通学の方法につきましては、保護者で構成した専門部会ですね、通学支援部会というところで、どこに停留所を設けるとか何時発にするとか、そういったものについては、子どもたちの負担等を考えて、保護者を中心に話し合っていて決めてきていますので、今回もし統合ということになって、スクールバスを走らせることになれば、そういうような形になるかと思っています。

あとは、個別の体調とか、いろんな子どもたちもいますけど、その状況に応じて考えていかなくてはいけないことだと思っています。

参加者 ありがとうございます。

大人の意見も大事だと思うんですけれども、一度子どもの声も、それを反映するかしないかは別として、聞いていただけたらと思います。

委員長 はい、よろしいですか。

他に意見あれば、お願いいたします。

参加者 一つ質問ですが、教員のところで、教員が少なくなるとか、先生の専門分野が少なくなったりという教員のことをたくさん書いてあるんですが、これを見ますと、何か保護者等が教員のことまで考えなくてはいけないようなことばかりではないのかなと思うんです。

これは、教育委員会と、あと費用とかは県・市がもって教員を育てるっていうふうに思うんですが、なぜこれは地元の保護者とかに訴え、それが再度強調されているように思うんです。これは私の感じたところです。

あと、時間が根本のほうから1時間ほどかかるという。これはかかりませんとおっしゃっていただきましたが、警報が出たときなんかはどうなるんですかね。今こちらの町ではちょっとわからないんですが、一般的に、警報が出ますと、保護者の皆さんが迎えに行くというふうになっているんですね。その辺が、今ですと、白浜小学校ですと、やっと今根本の方が慣れてきて、距離的なものもいけるんですが、千倉までだと気持ちちょっと遠いのと、保護者の方は皆さんがおうちにおられるとは限らないんですね。若い方は、お仕事されている方も多いと思うんです。そうしますと、バスですので1時間かかるけれども、乗用車であれば30・40分ですよと言われると思うんですが、お仕事されている方などのことも考えていただきたいなと思いました。

それとあと、複式学級がとても悪いようなイメージで発言されておられますが、今きょうだいが少ない方が多いです。そうすると、上の年齢の方、下の年齢の子たちを大事にしたり、年の違う教育というものもありますし、平成27年の文科省から複式学級のメリット・デメリットもあり、複式学級が一概に悪いと言われるほどではない。良い面もあるというふうに出ている資料がインターネットでも調べられるんです。ですので、その辺はどうなっているのか。あたかも複式学級はよくないような表現をされておられたので、もう一度確認させていただきたいと思うのと、やはり、よくテレビでしか見てないんですけれども、分校で一人の子が卒業しましたとか、よくそういう学校があつて、そのときにはもう、それで学校がもうなくなりますっていうのを聞くんですが、そのときに、その子が一人でとても嫌だったっ

という言葉は聞かれてないんですね。そういうこともあるので、大人がおっしゃいますが、私達は確かに子どもの多い時代に育ちました。きょうだいも少なくとも2人から3人、また田舎に行くと4人くらいのきょうだいがいて育った時代と、今は隣近所にも子どもたちがいない。自分一人で学校に行って、初めて上下があるということになりますし、そういうこともあるので、複式学級だけがよくないような表現ばかりされると、住民たちは特に保護者たちはそうなのかなと、そういうふうなイメージを持ってしまいますので、その辺をお聞かせいただきたいと思います。

教育長 まず複式学級ですけど、端的に申し上げますと、子どもたちにとってどういうプラスになるかって言いますと、例えば国語の時間に、2年生と3年生が一つの教室でやるわけです。教員は一人です。そうすると、まず2年生に説明して、その間3年生は自習になるわけです。2年生への話が終わって、課題をやりなさいってことで、今度は3年生のほうの指導に当たるわけですね。ですから、45分の授業をやっても、先生が直接関わるのは半分になってくるわけです。果たしてそういう学習がいいのかどうか。今おっしゃったような、それでもいいんだっていう結論でしたら、それで結構だと思います。

教員にとってはどういうことがあるかっていうと、通常、2年の担任でしたら、2年の教科書の研究をして、授業に臨めばいいわけです。複式学級で2年生と3年生の担任をするととなると、同じように2年と3年の教科書の両方を勉強して臨んでいかなくちゃいけない。これはかなり教員にとって負担になっていきます。

教員の負担が大変だってことではなくて、なかなか準備とかそういうものも薄くなってくると思います。時間も限られているわけですので、したがって、子どもたちに指導する場面で、その教材研究・教え方とか、そういうことの練度が1学級で1学年指導しているものとはかなり大きく違ってくると思います。

これが例えば白浜小で想定しているのは、2年生・3年生・4年生・5年生・6年生と、ずっと複式学級が続くことが想定されるわけです。これは非常に私どもとすると、やっぱり避けなければいけない。複式学級が悪いってことではなくて、複式学級の良さもあるかもわかりませんが、やっぱり子どもと教員にとっては非常に負担が多い。あるいは、デメリットが多い。あえてその道をとらないほうがいい

のではないかっていうのが、私どもの判断です。

それともう一つ、大雨が降ったり、警報の場合ですね。これは迎えに行くってことをおっしゃったわけですけど、通常のところは、そういったことがあった場合については、子どもたちをすぐ迎えに行くということになっています。南房総市は、この十何年間か、繰り返しやってきたことは、災害があった、起こりそう、あるいは警報が出た場合については、学校で預かりますということをやっています。迎えに来なくて結構です。カムチャツカ沖の地震で、津波警報が出ました。あのときにですね、手前味噌になって聞き苦しいかと思うんですけど、館山市内は大渋滞になりました。子どもたちを迎えに行かなくちゃいけない。南房総市の、館山地区で勤務している人たちの親御さんは、館山の人たちはすぐ迎えに行かなくちゃいけない。南房総市の保護者は、学校で預かってくれるから大丈夫だっていう。

これはですね、3.11の教訓ですね。子どもたちを返した幼稚園・小学校は、子どもたちが亡くなっている例が多い。学校で預かって、それで亡くなったところは大川小学校だけなわけですね。その教訓をもとに、それ以来私どもは、引き渡し訓練ではなくて、預かり訓練ってことでやっています。

この際ですけど、引き渡すための3条件があります。まず、家の安全が確認されたこと。二つ目は、家と学校の間経路の安全が確認された場合。三つ目の条件としまして、子どもを学校から引き取ってきて、その後も大人が子どもと一緒にいられる。そういう三つの安全ですね。この安全が確認されたときには、学校に子どもを引き渡しに来てください。そういうルールでやっています。

ですから、私どもについては、警報が出た場合には、スクールバスが止まります。止まっても、幼稚園・保育所・学校で責任持ってお預かりして、今の安全の3原則ですね、これが確認された場合については、お迎えに来てくださってことで徹底しています。

長柄町か長南町で大雨が降ったときに、幼稚園の子どもを迎えに行くと、お父さんが車ごと流されて亡くなったとか。そういうものは、私どもはあってはならないことだということで取り組んでいますので、御理解いただければと思います。

それと、分校で1名が卒業して嫌なことはなかったっていう。それしか経験していないわけですし、周りの大人たち、そういった方たちからも温かい愛情を注がれて

過ごしていたと思います。それはそれで否定するものではありません。ただ、統合して、もっと大きな人数で生活・学習できる可能性がある。そういうものを踏まえて、皆さん方に判断していただければよろしいと思います。

参加者 すいません。

今の複式学級のことなんですけれども、先生が一人で二学年のことを教えると、生徒さんがあとの半分は自習をしていかなければならない。確かにそうなんですけれども、平成27年の文科省の資料によりますと、やはりそれでも成績は下がっていないということと、それとあと、一般の小学校の先生方は一クラス30人ほどの方を見ていると。先生方がおっしゃるには、一人・二人の先生方なんですけれども、家に仕事を持って帰っているということを聞きます。やはり複式学級の先生も大変なんですけれども、一般の学級をもっている先生も大変なんだと私は思っているんです。ですので、私的には、先生というのは複式学級でなくても大変っていう思いがあるので、複式学級だから大変っていうのは、ちょっと言い過ぎではなかろうかなと思うんです。

それと今おっしゃっていただいたように、愛情がいっぱいあったからその方によかったとおっしゃってもらえたということは、やっぱり人数の少ないところはいいこともあるということ、保護者の方たちにも伝えていただけたらいいのかなと思いました。

教育長 教員は、一人だから愛情をいっぱい注ぐというわけではないと思います。教員は30人のクラスの子どもたちにも愛情は注ぎますので。ですから、人数が少なくても多くても、教諭は愛情を注いで教育にあたっていますので。もう一つの観点で考えていただきたいのは、例えば5月1日現在で3歳の子どもたちは合わせて4人なわけですね。男の子1人・女の子3人なわけです。この集団で、育っていく中では、勉強だけではないわけですね。いろんな社会生活の始まりになるわけですね。

参加者 男女は同じ数でないと難しいんですか。

先ほどから女の子が何人、男の子が何人ってよく聞くんですが、女の子だけの集

団のクラスでも、男の子の集団のクラスがあっても、何か不都合があるんですか。私は教員でないので、そういう教育者のお考えはわからないのでお聞きするんですが。人数が少ないっていうのはわかるんですけどね。

教育長 先ほど男だけのクラスで、幼稚園2年・小学校4年、合わせて6年間を過ごした。保護者に見れば問題が出てきて、非常に乱暴な状況になってきたという。男女関係ないと言いますが、やはりバランスよく、世の中の縮図ですので、男女がバランスよくいるのが、ごく普通ではないかなと思っています。

それと、男女関係ないっていうことはそのとおりだと思いますけど、それでは4人で毎日顔を合わせて、いろんな生活をする。そういうことを6年間続けていくことが、子どもたちの成長にとっていいのかどうか。それでいいとすれば、私どもは白浜地区の結論としては、学校統合しないで、1学年4人・5人のクラスのまま6年間を送っていくような学校ですね。それを選んでいくしかないと思っています。

参加者 複式学級になったら女の子も男の子もおりますし、特に、一時、昔は都会の私立のほうなんかは、男の子ばかりのクラスとか、女の子ばかりのクラスっていうのがあったと思うんですが、その結果がこのように出たんですかね。

教育長 その見解については、私と違ってそれは結構だと思います。

ただ、保護者・地域の人たちが、男女関係なくても4人・5人の学年の集団で、白浜の子は育てていくんだ。小学校生活を送らせるんだ。そういうような結論が話し合っていれば、私どもはそれに従います。

ただ、教育委員会の立場とすると、4人・5人の集団ではなくて、学校統合で、もっと大きな集団ですね。といってもそんなに多くないわけですけど、そういう大きな集団でいろんな子どもたちと接する中でいろいろ学んでいく。そういうような環境で小学校生活を送らせたほうがいいのではないかっていうのが、私どもの考えであります。

参加者 よくわかりました。

学校のほうでも、こういう少人数の場合は、御父兄さんとかおじいちゃん・おばあちゃんとの関わりをたくさん持つことによって、人間形成ができると思いますので、これで私の質問は終わらせていただきます。

委員長 よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございました。

他に御意見等あれば、お願いいたします。

はい、どうぞ。

参加者 もし統合された場合には、例えば千倉になったときに、どちらの学校、例えば白浜と千倉の中間の学校とか、考えられることはありますか。そうすればお互いに距離がいいですね。親御さんも子どもさんもそんなに早く出なくて済むのかなど。

教育長 学校の位置については、冒頭に申し上げましたように、両地区で統合しようという方向が決まりましたら、合同会議で提案いたします。その際に、今おっしゃったような、中間でっていうものも想定できるとすれば、当然候補の中に上がってくると思います。

ただ、目の前にですね、学年4人・5人の子どもたちがもう目の前にいるわけですね。したがって、新しく敷地を用意して、校舎を建ててっていうことになると、この子どもたちの小学校生活、かなりの部分が終わってしまう可能性もあるんで、そういったことも含めて、校舎の位置については合同会議で提案する考えでいます。

参加者 例えば、七浦の小学校が、合併してから（※）建てられました。広さがどうだかわからないんですけども。

（※七浦小学校は千倉町で建設した）

教育長 七浦小学校は、学校としてはもう廃校にしまして、今医療施設になっています。医療施設だけではなくて、地域の人たちが集う、そういうような空間もあります。

ですから、学校としては旧七浦小学校はもう可能性はありません。

参加者 実は近所に中学生の子がいて、7時5分か6分頃にバス乗るかと思うんですよ。そうすると、一生懸命走って出かけるんですね。乗り遅れて親が送っていったり、それは男の子が早く起きればいいことなのかもしれないんですけども、ましてや根本の子どもたちは結構大変だと思うんです。それで、今質問させていただきました。以上です。

教育長 もしそうなった場合についてはですね、根本の子どもたちが今までよりも極めて早く家を出なくちゃいけないとか、そういうものについては保護者が中心になった部会で検討していきますので、そういったことはない。避けていきたいと思っておりますので。ちなみに、今拓心高校に通う生徒のためにも、根本からスクールバスを出していますので。十分その辺も配慮して、私どもは考えていますので。

委員長 今の回答でよろしいですか。
はい、ありがとうございました。
他に御意見等。いい機会ですので、どうぞ何でも結構ですよ。

《しばらくの間》

委員長 よろしいでしょうか。
どうぞ。

参加者 度々すいません。
学校の位置ですとか学校名ですとかってというのは、教育長さんが先ほどおっしゃられましたけれども、統合委員会で、合併するっていう方向になったときに、初めて決まるものだと、前からおっしゃってると思うんですけども、それも含めていろいろ検討したいというのが親の考えだと思います。例えば、位置があっちだっ

たらちょっとって思うかも知れない。こっちだったらいいと思うかも知れない。中間だったらちょっと考えようとか。いろんな意見が出ると思うんで、今までの経緯で、決まってから検討しようっていうのはわかるんですけども、大体の大まかなものがわからないと、やっぱり進めないのかなって思うので、現実的に考えて、千倉に行くっていうのが現実なんでしょうか。そこをはっきりしていただかないと、親も考えられないのかなと思います。

教育長 私どもは、両地区で統合という方向で、抱えている問題ですね。子どもの数が少なくなっている。そういう環境を違った環境にしていく。そのことだけについて、まず方向性を決めていただく。

ですから、私どもとすると、学校はここだったら今の子どもの数で、この環境のままでもいいですよってことは、あり得ないと思ってます。今の4人・5人とかそういう子どもの数が極めて少なくなっている。これをどんなふうで統合で解決しているかという、そういう結論が両方で得られた場合については、その後のことについては、その問題解消のためにじゃあ学校はどこがいいとか、それは次の課題になってくると思っています。

今はそういう形で進めていますので。

参加者 例えば千倉の子たちが白浜に来るっていうふうになれば、賛成っていう方も多いかも知れないですけども、白浜だけが千倉のほうに行くっていうのは負担が大きすぎるのではないかと思います。

教育長 それは合同会議でそういう主張をされて、それでもしそれが通らなければ、とうか合意が得られなかったら、統合ということはないということになると思っています。

ですから、先ほど申しあげましたように、それぞれの地区で統合の方向ということで合意していただいて、その後で具体的な校舎の位置とか、そういったものを話し合ってください。その段階で、両地区で合意が得られなかったら、統合そのものがなくなる。そんなふうを考えています。

参加者 もし同意して、その話になって、やっぱりやめたいですっていうのもあるんですか。そこまでいったら、もう進んでしまうんじゃないんですか。

教育長 いや、話し合いの中ですから、「いや、その学校の位置では賛成できない」という結論が多くなれば、統合そのものもなくなる。そういうことだと思っています。

参加者 その段階では、もう選ばれた役員の方しかいないと思いますので、こういった住民の方々の声とか親の声というのは、なかなか届きづらいんじゃないかと思うんですけれども。

教育長 合間、話し合いの途中、あるいは一定の方向性が出た段階、そういった折で、このような保護者あるいは地区の方々への説明会は繰り返しやってきております。こういう説明会をもとに、再編検討委員の皆さん方は協議する。こういう仕組みになっています。

ですから、再編検討委員会で結論を出して、もうそれで終わりっていうわけじゃなくて、一定方向の結論が出たら、説明会はこれまでもやってきてますし、この両地区の再編についても同じような形をとっていく。そういうふうに考えています。

参加者 住民の声と親の声、子どもの声を真剣に聞いて決断していただきたいと思います。以上です。

委員長 よろしいですか。

はい、ありがとうございました。

他に御意見等ございますか。

《しばらくの間》

委員長 よろしいですか。

じゃあ、ないようですので、質疑・意見交換を終えたいと思いますが、いかがですか。じゃあ、ありがとうございました。それではこれで終了したいと思います。

後日ですね、何かお気づきの点、もっと知りたい点があればですね、直接、事務局ほうへお問い合わせください。

本日、皆様から頂戴した御意見等は、今後の白浜地区学校再編検討委員会の協議・検討の際に参考にしていきたいと思います。

それでは、次第の6、質疑・意見交換を終わります。進行のほうを事務局にお返しします。

7 閉会

進行 山崎委員長、ありがとうございました。

今後の白浜地区学校再編検討委員会の協議・検討内容につきましても、ホームページで逐次公開しておりますので、御確認ください。

以上をもちまして、白浜地区学校再編に関わる地区説明会を閉会いたします。